

津山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	教科名	実践英語 I
科目基礎情報					
科目番号	0007	科目区分	一般 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	MS-1,EC-1	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 配布プリント (映画スクリプト) . 参考書: 辞書 (電子辞書可), MP3音声. 参考映画: 『アバウト・タイム 一愛おしい時間について』 (2013)				
担当教員	住田 光子				
到達目標					
[学習目的] 研究結果を学会などで発表し, 他の研究者や技術者との交流を通じて, プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につけていること。					
[到達目標] 1. 本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ, 身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。 2. 国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。 3. 文法的に正しく, 論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができる。 4. 自分の到達度を測る手段としてTOEICをはじめとした語学試験のスコアを上げることができる。 ◎: 技術者や一般市民など, コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで, 説明の方法を工夫しながら, 自分の意見や考えをわかりやすく伝え, 十分な理解を得ることができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につけていない。	
評価項目2	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがスムーズにできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがなんとかできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができない。	
評価項目3	文法的に正しく, 論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができる。	文法的に正しく, 論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿をおおむね用意することができる。	文法的に正しく, 論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿をなんとか用意することができる。	文法的に正しく, 論理性のある英文で書かれたスピーチ原稿を用意することができない。	
評価項目4	TOEIC400点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題を十分に解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題を おおむね解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題を いくらか解くことが最低限できる。	TOEIC400点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題を 解くことができない。	
評価項目5	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることが十分にできる。	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることがおおむねできる。	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることが最低限できる。	説明の方法を工夫して自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 学習の分野: 外国語 必修・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 英語・英米文学・言語学・音声学</p> <p>専攻科学習目標との関連: 本科目は専攻科学習目標「(6) 校外実習, 先端技術特別講義や学協会への参加を通じて, 地域社会との連携を図るとともに, 地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成, F-3: 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。</p> <p>授業の概要: さまざまな場面で使用される英語の表現を学び, 理工系大学生として必要なコミュニケーション能力を伸ばす。とくに, 映画音声をつかって, リスニング演習を行う。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<p>授業の内容・方法: 英語での発表で必要となる表現を学び, 実際に発表も行っていく。また映画音声をつかって, 受講生が授業外でリスニング練習をすすめていく。授業では, 聴解の学習到達度を確認する。扱う映画は, <タイム・トラベル> を物語の鍵とした, リチャード・カーティスの代表作『アバウト・タイム』(2013)。時空間を行きつ戻りつ, メアリーに会おうべく, 運命の筋書きを変えようと奮闘する青年チームの姿に注目してほしい。</p> <p>成績評価方法: 2回の口頭発表を45%, 授業での演習を55% (授業内Quiz, Dictation Quiz, グループ課題, 積極性など) とし, 合計により総合的に評価する。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが, これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。前期開講科目である。 日ごろの授業参加に重きをおく。特に, 毎回おこなわれる ①Dictation Quizと ② グループ課題をおこたると点数が下がることに留意すること。理由があつて休む場合は, 事前に相談してほしい。</p> <p>履修のアドバイス: 授業には積極的に参加し, 課題は必ず期限内に提出すること。基礎的な英語によるコミュニケーション能力を身につけ, TOEICテストで良いスコアを取得しておくこと就職後就職後の昇進の際にも有利である。</p> <p>基礎科目: 英語IV (4年), 選択英語I (4), 英語V (5), 選択英語II (5) 関連科目: 技術英語講読 (専1年), 実践英語II (専2)</p> <p>受講のアドバイス: 聴解演習では, 毎週2時間以上練習してのぞむこと。授業開始後の入室は, 学習の妨げになるので慎むこと。60分以上の遅刻は欠課扱いとする。</p> <p>受講上の注意: テキストわずか, 私語, PCで他の作業をする学生に対しては, きびしく減点する。</p>				
授業計画					

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	オリエンテーション, テキスト (配布プリント) 及びおすすめかたの説明	授業の形式・進度, テキストの使い方, Quizのしくみ, 受講上の留意点について把握する。
	2週	グループ・ワーク 映画About Time 聴解演習 (pp.1-16から)	口頭練習を通して、英語を積極的にはなすようになる。ナチュラル・スピードの英語(抜粋)を理解する。
	3週	グループ・ワーク, About Time 聴解演習 (pp.17-35から)	"
	4週	グループ・ワーク, About Time 聴解演習 (pp.36-54から)	"
	5週	グループ・ワーク, About Time 聴解演習 (pp.55-74から)	"
	6週	映画About Time 聴解演習 (pp.55-74から), ガイダンス	" プレゼンの準備をする。
	7週	プレゼンテーション① / 授業内Quiz	各自, 発表の準備を行なった上で, その成果を示す。
	8週	プレゼンテーション①	各自, 発表の準備を行なった上で, その成果を示す。授業前半をふりかえる。
	9週	グループ・ワーク, 映画About Time 聴解演習 (pp.75-84から)	口頭練習を通して、英語を積極的にはなすようになる。ナチュラル・スピードの英語(抜粋)を理解する。
	10週	グループ・ワーク, 映画About Time 聴解演習 (pp.75-84から)	"
	11週	グループ・ワーク, 映画About Time 聴解演習 (pp.85-103から)	"
	12週	映画About Time 聴解演習 (pp.104-108から), ガイダンス	"
	13週	ふりかえり / 授業内Quiz	授業後半をふりかえり, 到達度を確認する。。
	14週	プレゼンテーション②	各自, 発表の準備を行なった上で, その成果を示す。
	15週	(期末試験週) プレゼンテーション②	" * なお, 期末試験はおこなわない。
	16週	総合成績の提示 / 本科目の総括とまとめ	科目全体のふりかえりをする。これからの課題をみつけることができる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	40	0	0	40	20	100
基礎的能力	0	35	0	0	35	20	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	5	0	0	5	0	10

津山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	教科名	実践英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0026		科目区分	一般 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	MS-2,EC-2		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「Coffee Shop Discussions: The Foundations of "Good" Discussion」 (南雲堂) ・ 「Overall Skills for the TOEIC Test」 (成美堂) 参考書: 辞書 (電子辞書含む)				
担当教員	山口 裕美				
到達目標					
[学習目的] 研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。					
[到達目標] 1. 本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ、身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。 2. 英語によるプレゼンテーション能力を身につける。 3. 自分の到達度を測る手段としてTOEICを利用し、履修後にスコアを上げることができる。 ◎ 技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いていない。	
評価項目2	英語によるプレゼンテーション能力を十分に身につける。	英語によるプレゼンテーション能力をおおむね身につける。	英語によるプレゼンテーション能力を最低限は身につける。	英語によるプレゼンテーション能力を身につけられない。	
評価項目3	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をいくらか解くことができる。	TOEIC400点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができない。	
評価項目4	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることがおおむねできる。	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることが最低限できる。	技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別・学習の分野: 一般・外国語 必修・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 英語・英米文学・言語学・音声学 専攻科学習目標との関連: 本科目は専攻科学習目標「(6) 校外実習、先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-3: 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。 授業の概要: プレゼンで頻用される表現やテクニックを学習しながら、英語での発表ができるようにする。TOEICテストの準備も行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の方法: 授業での表現を利用して自分の言いたいことを英語で表現できるようにする。同時に、TOEICのテキストを用いて、TOEIC受験に向けた対策も進めていく。 成績評価方法: 課題20%, 小テスト40%, 発表20%, 相互評価20%, 以上の合計により評価する。定期試験をおこなわない。				
注意点	履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。英語力を判断する手段としてTOEICが広く認められている現状を踏まえ、TOEICを積極的に受験する姿勢を持って欲しい。 基礎科目: 英語IV(4年)、選択英語I(4)、英語V(5)、選択英語II(5)、実践英語I(専1) 関連科目: 技術英語講義(専1) 受講上のアドバイス: 授業前に必ず、予習をしてくること。授業開始後の入室は遅刻とみなし、2回の遅刻で1単位時間の欠課とする。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	授業ガイダンス, TOEICの説明	授業概要を理解する		
	2週	TOEIC練習 CSD: Unit 1	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる(英作文・音読)		
	3週	TOEIC練習 CSD: Unit 1	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる(英作文・音読)		
	4週	TOEIC練習 小テスト① CSD: Unit 2	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる(英作文・音読)		

5週	TOEIC練習 CSD : Unit 2	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる (英作文・音読)
6週	TOEIC練習 CSD : Unit 3	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる (英作文・音読)
7週	小テスト② CSD : Unit 3 まとめ (発表) ①-1	ディスカッションを基礎とした発表をおこなう
8週	まとめ (発表) ①-2	ディスカッションを基礎とした発表をおこなう
9週	TOEIC練習 CSD : Unit 4	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる (英作文・音読)
10週	TOEIC練習 CSD : Unit 4	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる (英作文・音読)
11週	小テスト③ CSD : Unit 8	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる (英作文・音読)
12週	TOEIC練習 CSD : Unit 8	TOEICを受験する準備ができる ディスカッションを基礎とした発表を理解できる (英作文・音読)
13週	TOEIC練習 CSD : Unit 10 まとめ (発表) ②-1	ディスカッションを基礎とした発表をおこなう
14週	CSD : Unit 10 小テスト④ まとめ (発表) ②-2	ディスカッションを基礎とした発表をおこなう
15週	(期末試験)	定期試験は実施しない。
16週	授業のまとめ	授業を振り返ることができる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	20	20	0	20	40	100
基礎的能力	0	15	15	0	20	40	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	5	5	0	0	0	10

津山工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	教科名	日中比較文化論
科目基礎情報				
科目番号	0010	科目区分	一般 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	MS-1,EC-1	対象学年	専1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 特になし (プリント配付), 参考書: 『中国語学習&異文化理解ハンドブック』 (アルク)			
担当教員	杉山 明			
到達目標				
学習目的: 文化的偏見を捨て、今後さらに発展するであろう日中交流に寄与できる能力を身につける。				
到達目標 1. 中国社会の、日本とは違った側面を理解する。 2. 他文化の存在を理解し、またそれを許容する視点を身につける。 3. 自己の主張、考えを、論理的に説明することができる。				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	自分たちと異なる文化を理解、許容しそれとの協力、共生の心を持つことが出来る。	自分たちと異なる文化を理解、許容しすることが出来る。	自分たちと異なる文化を理解、許容しすることが出来る。	自分たちと異なる文化を理解、許容することができない
評価項目2	隣国中国の文化、社会事情を理解し、日本及び日本人の採るべき思考、行動を考えることが出来る。	日本との比較を通じて、隣国中国の文化、社会事情を理解することが出来る。	日本との比較を通じて、隣国中国の文化、社会事情を理解することが出来る。	隣国中国の文化、社会事情を理解することが出来ない
評価項目3	自己の主張、考えを、情熱と説得力を持って記述することが出来る。	自己の主張、考えを、情熱を持って記述することが出来る。	自己の主張、考えを、情熱を持って記述することが出来る。	自己の主張、考えを、うまく記述することが出来ない
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別: 一般 学習の分野: 人文・社会 必修・履修・履修選択・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 中国語/東洋史/中国哲学/中国文学 専攻科学学習目標との関連: 本科目は専攻科学学習目標「(6) 校外実習, 先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B) 地球的視野に立った人間性の育成、B-2: 地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」であるが、付随的には「B-1」にも関与する。 授業の概要: 伝統的な中国文化とともに現代中国事情を解説する。適宜、課題図書も与える。			
授業の進め方と授業内容・方法	授業の方法: 15週を後期に集中して行う。1回の授業の中で、中国文化に関連するテーマひとつを講義する。試験は中間考査と期末考査の2回実施する。レポートも2本課す予定。 成績評価方法: 2回の試験の結果が70%、課題レポート2本で30%の比重とする。課題レポートは、中国語および中国社会をどれだけ理解し、かつ自身とは異なった価値観をどの程度許容する視点を身につけることができたかが評価の基準となる。			
注意点	履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 学士の認定を受けるためには必要な講座なので、その点をよく理解して受講すること。 基礎科目: 世界史(1年)、政治経済(2)、国際文化論(4)、人間と歴史(5) 関連科目: 国際コミュニケーション演習(専1年)、社会科学概論(専2) 受講上のアドバイス: 平素から中国に関する新聞やテレビ等の報道やニュースに関心を払うことが大切である。遅刻時間が20分を過ぎれば欠課扱いとする。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	なぜ中国を学ぶか	中国研究の必要性を理解する。	
	2週	地理と言語、民族等	中国の地理と言語、民族等を理解する。	
	3週	戦後中国の歴史と文化大革命	戦後中国の歴史と文化大革命の実態を理解する。	
	4週	国家意識と一族主義	中国人の国家意識と一族主義を理解する。	
	5週	中華思想 儒家と道家	中華思想 儒家と道家について理解する。	
	6週	性悪説と性善説 歴史観	性悪説と性善説、および中国人の 歴史観を理解する。	
	7週	中間試験	これまでの学習内容の理解度を確認する。	
	8週	中間試験の返却と解説	これまでの学習理解の足りない部分を補う。	
	9週	一人っ子政策と高齢化問題 参考文献の購読、課題レポートの作成	中国の一人っ子政策と高齢化問題を理解する。参考文献を購読し、課題レポートを作成する。	

10週	格差社会	中国社会の抱える格差問題について理解する。
11週	台湾と香港	台湾と香港の歴史、状況について理解する。
12週	環境破壊	中国の環境問題を理解する。
13週	偽ブランド	中国に於ける偽ブランド、商標侵害問題を理解する。
14週	中国企業の現在 参考文献の購読, 課題レポートの作成	特に中国の国営企業の現状を理解する。参考文献を購読し, 課題レポートを作成する。
15週	期末試験	これまでの学習内容の理解度を確認する。
16週	期末試験の返却と解説	これまでの学習理解の足りない部分を補う。

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	教科名	現代哲学
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	MS-2,EC-2		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 川原栄峰「哲学入門以前」(南窓社) 参考書: 特になし				
担当教員	稲田 知己				
到達目標					
学習目的: この授業は、生命倫理をはじめとした現代哲学の諸問題を系統的に学習することによって、技術者として社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としている。					
到達目標 1 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 2 現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。 ◎ 3 人間性、教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。 ◎ 印がついているものは、分野横断的能力の到達目標です。					
ループリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その詳細を発展的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	左記に達していない。	
評価項目2	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、詳細かつ発展的に説明できる。	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	左記に達していない。	
評価項目3	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ発展的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ基本的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的表現することができる。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 学習の分野: 人文・社会</p> <p>必修・必履修・履修選択・選択の別: 選択</p> <p>基礎となる学問分野: 哲学/倫理学</p> <p>学習・教育目標との関連: 本科目は専攻科学習・教育目標「(5)工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義を受講するとともに、広く技術者倫理の理解ができる」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(G) 技術者倫理の理解, G-1: 倫理的・経済的および安全上の考察に関する理解を深め、技術者として社会に対する責任を自覚し、説明できること」である。</p> <p>授業の概要: 現代の工学技術者・工学研究者にとって倫理教育は不可欠の教養となっている。今年度の「現代哲学」では、哲学・倫理学の根本問題を取り上げることによって、科学技術文明について考察を深めたい。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<p>授業の方法: 前期開講。簡便な哲学の教科書を使用するが、受講生自身と議論することによって授業をすすめていく。課題提出を求めて授業時間外での追加学習を求める。</p> <p>成績評価方法: 1回のレポート(50%)。授業中の発表あるいは授業内容を確認する報告書(50%)。再試験は実施しない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。</p> <p>履修のアドバイス: レポートが必ず課されるので、平素から新聞等を読む習慣をつけて、自分なりの問題関心をもつこと。</p> <p>基礎科目: 倫理(全系1年), 工業倫理学(全系5)</p> <p>関連科目: 工学倫理(専1年)</p> <p>受講上のアドバイス: 平常点・出席点は成績評価で考慮しないが、必ず授業時間数の2/3は出席すること。遅刻については、授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが、何回かの遅刻を1欠課とするという措置はとらない。</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	● ガイダンス	到達目標全般の説明		
	2週	● 教科書第1章「自由」	到達目標1		
	3週	● 同上	到達目標1		
	4週	● 教科書第2章「歴史」	到達目標1		
	5週	● 同上	到達目標1		
	6週	● 教科書第3章「個と普遍」	到達目標1		
	7週	● 教科書第4章「科学の勃興」	到達目標2		

8週	• 教科書第5章「客観性」	到達目標2
9週	• 同上	到達目標2
10週	• 教科書第6章「弁証法」	到達目標2
11週	• 教科書第7章「実存」	到達目標2
12週	• 同上	到達目標2
13週	• 教科書第8章「ニヒリズム」	到達目標2
14週	• 同上	到達目標2
15週	• 報告書／レポート作成の指示	到達目標3
16週	成績評価の解説	到達目標3

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	40	0	0	40	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	10	0	0	10	0	20